

都市再生整備計画事業 事後評価シート(原案)
御船地区

平成27年3月

熊本県御船町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県	市町村名	御船町	地区名	御船地区			面積	215ha							
交付期間	平成22年度～26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	2,200百万円	国費率	0.358							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 公園(ふれあい広場)、地域生活基盤施設(シンボルロード線沿道におけるポケットパーク整備)、高質空間形成施設(城山小学校線、迎町高校線、辺田見役場線、シンボルロード線沿道におけるモニュメント整備)、既存建造物活用事業(仮)御船町観光交流センター、(仮)子育てふれあい館、(仮)街なかギャラリー)													
		提案事業	地域創造支援事業(恐竜博物館整備事業、迎町高校線埋蔵文化財調査)、事業活用調査(事後効果分析)、まちづくり活動推進事業(ワークショップ等)													
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-													
		提案事業	-													
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(中央線) 公園(城山公園) 地域生活基盤施設(サイン計画策定、案内板設置) 地域生活基盤施設(駐車場整備) 地域生活基盤施設(町民グラウンド) 高質空間形成施設(コミュニティ道路(荒瀬妙見坂線)) 高質空間形成施設(シンボルロード線音響整備) 高質空間形成施設(街路灯整備) 高次都市施設((仮)御船町観光交流センター(新設))	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	-													
交付期間の変更	当初	平成22年度～26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-									
変更	-		-			-		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期						
	指標1	施設利用者数(恐竜博物館来館者数)	人/年	31,454 H20	40,000 H26	モニタリング	評価値	173,806	○	あり	恐竜博物館新設に併せて、PR活動、観光交流センターやアクセス道路・駐車場整備、モニュメント設置等、総合的な対応により、博物館来館者が大幅に増加した。	平成27年5月				
	指標2	コミュニティ活動参加者数	人/年	216 H21	400 H26	モニタリング	評価値	420	○	あり	都市再生整備計画事業により整備した各種施設の運営や利活用に向けた管理者や利用者、周辺住民による検討が進められ、目標達成に至ったと考えられる。	平成27年5月				
	指標3	子育て支援センター利用者数(子育てふれあい館利用者数)	人/年	3,401 H20	4,100 H26	モニタリング	評価値	7,045	○	あり	子育て支援施設を保健センター等の公共施設が集積する本町役場隣接地に整備した事により、利便性が向上し、利用者増につながったと考えられる。	平成27年5月				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期						
	その他の数値指標1	シンボルロード歩行者交通量(平日及び休日、12時間交通量、役場前)	人/日	平日:402 休日:77	H23	モニタリング	評価値	平日:853 休日:319	○	あり	シンボルロード線沿線にふれあい広場、恐竜博物館等が立地し、御船川左岸側にも街なかギャラリーが整備され、沿線全体の回遊性が向上したことが説明できる。	-				
4)定性的な効果発現状況	御船町PRキャラクター「ふねまる」と連携した戦略的なPR活動を展開し、御船町の認知度の向上や更なる集客性の向上に向けて、職員・町民が一丸となって取り組んでいる。 今回事業で整備した街なかギャラリー(旧酒蔵)について、その利用方法についての意見を集めたところ、さまざまな意見が寄せられ、その期待がうかがえる。															
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等					
	モニタリング	①都市再生整備計画事業実務者会議の開催 ②まちづくり住民説明会の開催 ③事業パンフレット、広報みふねによる事業進捗状況等の報告					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● ①横断的な組織を設置し、情報の共有化と目的意識の統一化を図る。 ②③計画段階から事業完了後までの様々な段階において、様々な情報提供の機会を設ける。				
	住民参加プロセス	各種計画策定にあたっての町民ワークショップの開催(ふれあい広場、恐竜博物館、観光交流センター、子育てふれあい館等)					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後も、新たな事業を展開するにあたり、利用者、地域住民の理解・協力を得るため、ワークショップ等による意見集約、合意形成に向けた取組みを実施する。				
持続的なまちづくり体制の構築	町民と行政との協働による地域特性を生かした特色あるまちづくり活動の継続的な推進					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 都市再生整備計画事業終了後もまちづくりの担い手として、継続して連携を図る。					

様式2-2 地区の概要

御船地区(熊本県御船町) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 御船町の新たな顔となる「人集い夢かなう文化交流空間」の形成 目標1: [地域の魅力再生]…地域資源(恐竜、酒蔵、音楽、自然環境等)を生かした交流拠点の形成による魅力の再生を図る。 目標2: [賑わい再生]…新たな交流拠点における住民と来街者の活動や交流による地区の賑わい再生を図る。 目標3: [住環境の向上]…子育て支援や安全な交通ネットワークの形成、身近な公園整備による住環境の向上を図る。		施設利用者数(恐竜博物館来館者数)	単位: 人/年	31,454	H20	40,000	H26	173,806	H26
		コミュニティ活動参加者数	単位: 人/年	216	H21	400	H26	420	H26
		子育て支援センター利用者数(子育てふれあい館利用者数)	単位: 人/年	3,401	H20	4,100	H26	7,045	H26

凡例

- 基幹事業
- 提案事業

○ 関連事業 (都) シンボルロード線整備事業 [交通環境の整備]

○ 関連事業 国道445号及び443号バイパス整備事業 [交通環境の整備]

■ 基幹事業 高質空間形成施設 街路灯整備(主に地区西側エリア) [歩行者安全性確保]

■ 基幹事業 道路 中央線 [交通環境の改善、交通処理の円滑化]

■ 基幹事業 高質空間形成施設 コミュニティ道路整備(荒瀬妙見坂線) [左岸商店街の回遊性向上]

街なかギャラリー整備

■ 基幹事業 既存建造物活用事業 (仮称) 街なかギャラリー整備 [旧酒蔵活用によるギャラリー設置]

恐竜博物館

■ 基幹事業 既存建造物活用事業 (仮称) 御船町観光交流センター整備 (仮称) 子育てふれあい館整備 [園舎等活用による観光拠点の整備]

子育てふれあい館

■ 提案事業 地域創造支援事業 御船町恐竜博物館整備 [町のシンボル施設・拠点施設]

■ 基幹事業 高次都市施設 (仮称) 御船町観光交流センター整備 [恐竜博物館に併設した観光拠点整備]

■ 基幹事業 公園 城山公園改修 [憩いの場、交流拠点としての再生]

■ 基幹事業 公園 御船川 [憩いの場、B.P.利用者の休憩施設]

■ 提案事業 まちづくり活動推進事業 ワークショップ開催、PR活動等 [住民参画、広報活動]

■ 基幹事業 地域生活基盤施設 町民グラウンド改修 [スポーツ拠点としての施設利便性向上]

■ 基幹事業 地域生活基盤施設 駐車場整備 [来訪者のアクセシビリティ向上]

■ 基幹事業 地域生活基盤施設 ポケットパーク整備 [シンボルロード線沿道]

■ 基幹事業 高質空間形成施設 モニュメント整備、音響施設整備 [シンボルロード線沿道]

■ 提案事業 事業活用調査 事業効果分析 [都市再生整備計画事業による整備効果検証]

ふれあい広場

■ 基幹事業 高質空間形成施設 城山小学校線、迎町高校線、辺田見役場線 [交通環境の改善、歩行者安全性確保]

■ 提案事業 地域創造支援事業 埋蔵文化財調査(迎町高校線) [文化財整理保存による地域文化の継承]

■ 基幹事業 地域生活基盤施設 サイン計画策定、案内板設置 [来街者のアクセシビリティ・回遊性の向上]

ラッピング市電

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 計画に位置づけられた拠点整備(交流、観光、福祉、文化)や都市基盤整備(道路、公園等)を町民・住民参加のもとで実施した。 恐竜博物館には目標を大きく上回る大勢の来館者が訪れており、その来館者を博物館以外の施設・エリアへ回遊(連携)させることが今後の大きな課題となっている。 さらには、町全体に恩恵(にぎわい、利益)が行き渡るよう、今回事業で整備された各種施設をより一層活用することが重要で、そのためには、「人づくり」「仕組みづくり」「組織づくり」「戦略づくり」が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 恐竜博物館については、戦略的なPR活動の展開、展示内容の定期更新や体験イベントの開催、特別展示の実施(1回/年ペース)等により、来館者数の増加・維持を図る。 街なかギャラリー、子育てふれあい館、各種公園(ふれあい広場、城山公園、町民グラウンド等)については、更なる有効活用を図るため、各種イベントの開催を支援する。 町民・地域住民・事業者主体の持続可能なまちづくり体制を構築するため、まちづくり勉強会の実施支援やまちづくり組織の構築支援を行う。 観光交流センターについては、町内の集客施設との連携体制の構築支援(ネットワーク化、データベース化)や案内人(コンシェルジュ)の設置に向けた支援を行う。 城山公園における「がけ対策」による安全性確保に努めるとともに、町のシンボル拠点として、景観面に配慮した修景整備を実施する。